

取組に対する年度目標

①後方支援体制の整備の支援

2020年の到達イメージ

- ・医療機関と行政が参画する会議で後方支援体制を議題とし、課題の共有と体制整備に向けた話し合いを行う。
- ・市民に後方支援体制を理解してもらう取組みを実施する。
- ・機能の異なる病院間でスキル提供を行い、ポストアキュート、サブアキュート患者の受入態勢を強化することで、急性期病院の急変時受入れを確保する。
- ・病院や医師会、在宅医療関係者と連携し、後方支援システムを策定。
- ・近隣市町の病院に後方支援病院を担ってもらう。

2018年度

(目標)

- ・医療機関と行政が参画する会議において後方支援体制に係る課題の共有や関係機関の連携の現状把握 ⇒会議において後方支援体制を案件とする。
- ・市民向けの講座の内容に後方支援体制を組み込むことを検討
- ・医療と看護のスキル提供を介した病病連携の仕組みづくり
⇒提供可能なスキルの調整。病病連携の資料作成と病院への周知。
- ・近隣市町の在宅医療機関との連携構築

2019年度

(目標)

- ・医療機関と行政が参画する会議において後方支援体制に係る課題の共有や関係機関の連携の現状把握
⇒会議において後方支援体制を案件とする。
- ・市民向け講座の内容に後方支援体制を組み込む。
- ・病病連携の仕組みを活用して病院間で研修を開催
⇒病院間で連絡を取り合い、研修を開催
- ・医師会医師との連携強化 ⇒研修会等を通じ連携を強化
- ・近隣市町や病院と後方支援体制について話し合う。
⇒協議の場の設定

2020年度

(目標)

- ・医療機関と行政が参画する会議において後方支援体制に係る課題の共有や関係機関の連携の現状把握
⇒会議において後方支援体制を案件とする。また、体制整備について協議を進める。
 - ・急性期病院で患者の状態に応じた機能の病院への転院が進み、回復期・慢性期病院ではポストアキュート、サブアキュート患者の受入が増加
⇒スキル提供を介した病病連携の継続と連携の状況把握
 - ・医師会医師との連携強化 ⇒連携阻害の要因を確認。後方支援体制の検討
- (参考指標)
- ・スキル提供を介した病病連携の件数等の把握
 - ・在宅医療対応診療所の増加
 - ・後方支援体制の整備

取組に対する年度目標

②入退院時における関係機関のスムーズな連携

2020年の到達イメージ

- ・入退院支援ツールの活用により入退院時の連携が進み、切れ目のない医療・介護の提供体制が構築される。
- ・多職種連携の研修等によって顔の見える関係づくりを進める。
- ・市の医療機関情報システム及び介護サービス情報システムによる情報共有
- ・入退院支援に関するルール作りによるスムーズな情報共有と継続的な医療提供体制の確保
- ・病院や関係市町とともに後方支援体制を構築する。
- ・ICTを活用した情報共有ツールを用い、入退院時における関係機関の連携を図る。

2018年度

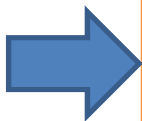
- (目標)
- ・既存のツールの普及を図る。また、活用状況を把握する。
⇒病院担当者とケアマネジャーの意見交換会の開催、普及率調査アンケート実施
 - ・入退院支援ツールやガイドラインの見直しや作成
⇒退院支援に関する会議を開催し、課題抽出
 - ・市の医療機関情報システム及び介護サービス情報システムの活用
 - ・地域包括支援センターが医療との連携窓口となり、個別支援体制の構築を目指す。
 - ・医療・介護関係者に対し、ICTを活用した情報共有ツールの導入
⇒予算措置及び対象者への説明会の実施

2019年度

- (目標)
- ・既存のツールの普及を図る。また、活用状況を把握する。
⇒病院担当者とケアマネジャーの意見交換会の開催、普及率調査アンケート実施
 - ・入退院支援ツールやガイドラインの周知及び運用
⇒ガイドラインに沿った支援の実施。事例を踏まえた課題の整理。多職種連携研修会において病院の退院支援について学びシートの活用方法を検討。
 - ・市の医療機関情報システム及び介護サービス情報システムの活用
 - ・情報共有ツールの導入を他府県近隣市の医療機関と検討
⇒他府県近隣市病院の情報共有方法の把握

2020年度

- (目標)
- ・地域での情報連携シートの普及率を確認
⇒病院担当者とケアマネジャーの意見交換会の開催、普及率調査アンケート実施
 - ・入退院支援ツールやガイドラインを周知、運用し見直しを行う。
⇒各病院で運用ルールの作成及び体制整備。ルールに基づく入退院調整の実施
 - ・市の医療機関情報システム及び介護サービス情報システムの活用
 - ・情報共有ツールの導入を他府県近隣市の医療機関と協議
- (参考指標)
- ・アンケート調査結果
 - ・入院時情報連携加算等を算定する居宅事業所や入退院支援加算等を算定する医療機関の増加
 - ・医療機関とケアマネジャーの連携数の増加
 - ・入退院カンファレンスやシート活用の連携数の増加
 - ・圏域版の連携ツールの完成
 - ・近隣病院との情報共有ツールの整備



取組に対する年度目標

③在宅医療関係者の行政の会議への参画

2020年の到達イメージ

- ・行政主催の会議に在宅を含む医療関係者が参画し、在宅医療の現状把握の実施、課題の解決方法の検討などを行う。
- ・在宅医療推進の環境づくりをテーマとした会議において、内容に応じた医療関係者の参画を要請する。
- ・在宅医療を提供する医療機関との関係づくり
- ・医療・介護の関係職種・機関が共通の認識をもって在宅医療を提供できるよう、**EOLケア**や**ACP**をテーマとした検討会を実施する。
- ・行政主催の会議の参画者を増やし、地域包括ケアに向けた関係機関の連携体制を構築。

2018年度

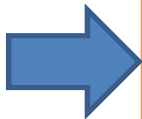
- (目標)
- ・行政主催の会議に在宅を含む医療関係者などが参画し、在宅医療の現状把握の実施、課題の解決方法の検討などを行う。 ⇒実施済みの市町あり。
 - ・会議の委員依頼などの際に医療関係者との関係構築に努める。
⇒委員依頼時にヒアリングを実施。在宅医療を提供する医療機関への講師依頼
 - ・**EOLケア**や**ACP**推進に関する課題の抽出
⇒**EOLケア**の勉強会や交流会、**ACP**プロジェクトチームの意見交換会の開催
 - ・在宅医療・介護連携の必要性の共有
⇒会議への在宅医療従事機関の参画を検討

2019年度

- (目標)
- ・行政主催の会議に在宅を含む医療関係者などが参画し、在宅医療の現状把握の実施、課題の解決方法の検討などを行う。
⇒実施済みの市町あり。
 - ・各職種の役割理解とネットワークの構築
⇒**EOLケア**及び**ACP**に関する交流会等の継続実施。
 - ・在宅医療・介護連携の課題の共有
⇒会議への在宅医療従事機関の参画
 - ・地域内の歯科医療機関による連絡会議の開催や医療機関連絡会議への薬剤師の参画検討
⇒歯科医療機関や薬局との調整

2020年度

- (目標)
- ・行政主催の会議に在宅を含む医療関係者などが参画し、在宅医療の現状把握の実施、課題の解決方法の検討などを行う。 ⇒実施済みの市町あり。
 - ・各職種の役割理解とネットワークの構築
⇒**EOLケア**及び**ACP**に関する交流会等の継続実施。
 - ・在宅医療・介護連携の強化 ⇒会議において在宅医療・介護連携について話し合う。
 - ・医師、歯科医師、薬剤師による連絡会議の開催や地域包括ケア（終末期、看取り等）の意識の共有 ⇒関係機関との調整、看取りについての議論
- (参考指標)
- ・会議開催数や参画機関数 ・行政主催の会議への在宅医療関係者の継続的な参加及び課題等の共有 ・会議の議題に在宅医療・介護連携が含まれている ・医師、歯科医師、薬剤師による連絡会議の開催



取組に対する年度目標

④薬局ネットワーク化の推進

2020年の到達イメージ

- ・ICTを活用した情報共有ツールへの薬剤師会会員の加入による情報共有・連携の促進
- ・薬局のネットワーク化の必要性その他課題の有無について協議を継続
- ・薬剤師会を軸とした情報共有や勉強会及びケア会議の開催
- ・薬局ネットワーク化に向けた取組みの情報収集
- ・会議への薬剤師委員の参画による連携深化
- ・薬局と医療機関の連携体制の構築

2018年度

(目標)

- ・ICTを活用した情報共有ツールへの薬剤師会会員の加入者数増加
⇒ツール説明会への参加促進
- ・医療・介護連携の中での薬局・薬剤師の課題の抽出
⇒退院支援検討会に参加し、ポリファーマシー対策。入退院での薬剤断絶の予防、かかりつけ医との連携について検討
- ・薬剤師会における薬局ネットワークの取組みの把握 ⇒薬剤師会からの情報収集
- ・地域薬局との連携推進
⇒個別支援での連携の構築。出前講座の講師を薬局が担い啓発に取り組む。
- ・医療機関連絡会議への薬剤師の参画検討 ⇒薬局との調整

2019年度

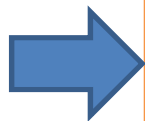
(目標)

- ・ICTを活用した情報共有ツールの利用による在宅医療への関わりの増加
- ・薬剤師会や地域薬局との連携強化
⇒研修会等を通じ地域薬局との連携を強化。会議において在宅医療・介護連携の課題検討。個別支援での連携の構築
- ・薬剤師会における薬局ネットワークの取組みの進捗状況の把握
⇒薬剤師会からの情報収集
- ・医療機関連絡会議への薬剤師の参画検討 ⇒薬局との調整

2020年度

(目標)

- ・薬剤師会や地域薬局との連携強化 ⇒連携の課題の抽出と解決方法の検討
 - ・薬剤師会における薬局ネットワークの取組みの進捗状況の把握
⇒薬剤師会からの情報収集
 - ・医療機関連絡会議への薬剤師の参画
 - ・医療機関と薬局とのネットワーク構築 ⇒関係機関との調整
- (参考指標)
- ・入退院前後のスムーズな薬剤管理数の増加
 - ・かかりつけ医と薬剤師の連携
 - ・薬局ネットワークの取組みを把握する
 - ・薬局との連携がスムーズに行われている
 - ・連絡会議への薬剤師の参画



取組に対する年度目標

⑤住民の生活圏を考慮した広域連携の構築

2020年の到達イメージ

- ・ICTを活用した情報共有ツールの利用促進・拡充による広域連携の構築推進
- ・府外の医療機関との連携の実現。病院主催の会議においては府外隣接市と連携できているため、更に充実を図る。
- ・府外の医療機関との広域連携の構築に努める。
- ・府内外の近隣市町の医療機関や介護資源の把握と連携の構築
- ・府外近隣市で利用の多い医療機関と顔の見える関係を構築

2018年度

(目標)

- ・ICTを活用した情報共有ツールのPR
⇒医師会を中心に、会議等の場で府内外の市町へ利便性を説明
- ・府外の医療機関の後方支援病院としての連携体制を把握
⇒医師会主催の会議での情報収集
- ・広域連携のための資源の把握
- ・住民への啓発 ⇒出前講座などでかかりつけ医制度の啓発を進める。
- ・府外近隣市で利用の多い医療機関と顔の見える関係を構築
⇒府外近隣市の医療機関で開催される研修会等への参加

2019年度

(目標)

- ・ICTを活用した情報共有ツールの市域を超えた運用ルールの検討
- ・府外の医療機関の後方支援病院としての連携体制の進捗状況を把握 ⇒医師会主催の会議での情報収集
- ・周辺市町を含めた広域連携の構築
⇒ 府外の医療機関を含めた連携強化のため、地域包括支援センターが窓口となり、個別支援体制を構築
- ・府外近隣市の医療機関との情報共有ツールの導入検討
⇒府外近隣市で利用の多い病院の情報共有方法の把握

2020年度

(目標)

- ・ICTを活用した情報共有ツールの市域を超えた利用
⇒市域を超えた運用ルールの策定
 - ・府外の医療機関の後方支援病院としての連携体制の進捗状況を把握
⇒医師会主催の会議での情報収集
 - ・周辺市町を含めた広域連携の構築
 - ・府外近隣市の医療機関との情報共有ツールの導入について協議
⇒府外近隣市で利用の多い病院の情報共有方法について協議
- (参考指標)
- ・情報共有ツールの市外利用者数
 - ・府外の医療機関との連携について、医師会と後方支援病院としての連携体制について情報収集
 - ・住民が大病院にかかるだけでなく、かかりつけ医を持っている
 - ・近隣病院との情報共有ツールを整備

